



右/アントニー・ゴームリー (Antony Gormley) 《One & Other》(2009) The Mayor's Fourth Plinth Commission, Trafalgar Square, London © Antony Gormley 左/ジャネット・エッチェルマン (Janet Echelman) 《As If It Were Already Here》(2015) Photo: Melissa Henry © Studio Echelman

■ フォーリス・プリンス 第四の台座 (イギリス、ロンドン／二〇〇五年～)

「第四の台座」は、ロンドンの中心部トラファルガー広場に世界的なアーティストの作品を期間限定で展示するプログラムである。資金不足のため何も設置できないままだった台座の扱いを巡り、一五〇年以上も議論が行われた結果、恒久設置ではなく、現代アートを順次展示する方式が提言され、三年の実験期間を経て本プログラムが導入された。二〇〇五年より大ロンドン庁文化部が主導、委託を受けた専門委員会が助言にあたる。二〇〇九年にはアントニー・ゴームリーが選ばれ、一般から選抜された総勢二四〇〇人が一時間ずつ交代で台座に立つというパフォーマンスを行い、大きな話題となった。

■ ローズ・ケネディ・グリーンウェイ・パブリックアート・プログラム (アメリカ、ボストン／二〇〇八年～)

二〇年以上をかけて進行していた高架高速道路の地下化工事を経て、二〇〇八年に地上部に誕生した公園「ローズ・ケネディ・グリーンウェイ」。道路工事で生まれた公園を管理するために、新たにローズ・ケネディ・グリーンウェイ保存機構(NPO)が組織され、州の高速道路局と自動車登録税の税収や企業や市民等からの寄付により、管理・運営にあたっている。二〇一二年からはパブリックアート・プログラムの五年計画を立て、毎年新たに期間限定の大規模な作品を展示する。写真の作品は、公園と道路の上部に浮かぶ長さ六〇メートルに及ぶ強力な繊維で作られた彫刻作品で、一八世紀に土地造成のために切り崩されたその場所にあった山並みを反映し、風や気候の変化で動く。